

共に歩もう

東日本大震災の津波被害に遭い、昨年4月30日から震災遺構として一般公開されている仙台市若林区の旧荒浜小で、市嘱託職員としてガイドを務めています。訪れる見学者に当時の状況などを説明しています。



庄子智香子さん(65)
仙台市若林区荒浜
・仙台市嘱託職員

震災前の荒浜 伝承

震災時の自宅は荒浜小の近くにありました。約800世帯に2200人ほどが暮らしていました。津波に流されました。古里に残された建物は母校の荒浜小だけになりました。古里の思い出は消したくない。ガイド活動を通して、震災前の荒浜がどういう地区だったのかを後世に伝えていくことが自身の役目と考えています。

問題

- ①旧荒浜小は今、どうなっているのでしょうか？
- ②庄子さんの自宅があった場所は、どのような被害に遭いましたか？
- ③庄子さんはどのような思いでガイドを続けているのでしょうか？
- ④あなたが東日本大震災について感じていることを周りの人と話してみましょう。

(小学校中学年以上／総合的な学習の時間等)

出題者から

東日本大震災から7年半がたちました。今年の小学校1年生は、震災後に生まれた子どもたちです。私は、震災への思いを持つ人の力も借りながら防災教育に生かして、語り伝えていかなければならないと考えています。

(日本新聞協会NIEアドバイザー・仙台市高砂小校長 中辻正樹)

8月26日付「かほくワークシート」の模範解答

① 旧荒浜小は今、どうなっているのでしょうか？

東日本大震災の津波被害に遭い、昨年4月30日から震災遺構として一般公開されている。

② 庄子さんの自宅があった場所は、どのような被害にあいましたか？

自宅のあった荒浜小の近くのあたりには約800世帯2200人ほどが暮らしていたが、すべての家屋が津波に流された。

③ 庄子さんはどのような思いでガイドを続けているのでしょうか？

古里に残された建物は母校の荒浜小だけ。古里の思い出は消したくない。震災前の荒浜がどういう地区だったのか後世に伝えたい。